

2022年(令和4年)10月17日(月曜日)

食のありがたみ体感

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長、172人)の1年生70人を対象とした「ハンガーバンクット(飢えの宴会)」が14日、高砂町の同校で開かれた。生徒たちはワークシヨップ(WS)を通じ、世界の食料格差、飢餓をなくすための取り組みについて理解を深めていた。

ハンガーバンクットは国際協力NGOオックスファム・アメリカが考案した体験型WS。普段生活している中では目に見えないことのない世界の食料格差を体感してもらおうと、16日の世界食料デーに合わせて毎年実施している。

高、中、低所得層の三つのグループに分かれ、所得層に合った食べ物を受け取る生徒たち



生徒たちはくじ引きで高所得層(年収120万円以上)、中所得層(同10万円以下)、低所得層(同10万円以下)の三つのグループに分かれた。高所得者は揚げ物やフルーツ、ジュースなどをビュッフェスタイルで、中所得者はバターロールとチーズ、味の薄いスープ、低所得者は食パン4分の1と水をNGOから配給された。

室蘭・海星学院高1年生 WSで格差考える

同校の市川栄作教諭は「貧困はこの国でもあり、人間は生まれる環境を選ぶことはできない。世界は2030年までに飢餓をなくすための取り組みをしている。自分たちができることを始めて」と呼びかけていた。

田中凜さん(16)は「ご飯を食べられるのを当たり前と思わず、感謝したい。ご飯を残さずに食べるなど自分たちができることをしていきたい」と話した。

(坂本綾子)